

管内関係機関 担当者 様

感染症発生動向について

このことについて令和7年第36週(9月1日～9月7日)の動向をお知らせします。

定点あたり患者数(1医療機関当たりの平均報告数)

感染症の種類	県北保健所管内 (平戸市、松浦市、佐々町)			長崎県	全国
	34週	35週	36週	36週	36週
インフルエンザ	0	0.33	0.33	0.61	0.50
新型コロナウイルス感染症	27.00	23.33	27.33	13.90	8.12
RSウイルス感染症	1.50	8.50	12.00	2.84	1.66
咽頭結膜熱	1.50	●4.00	●4.50	0.52	0.31
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.50	4.00	2.00	1.68	1.75
感染性胃腸炎	3.50	2.50	5.50	3.35	4.66
水痘	0.50	0	0.50	0.45	0.22
手足口病	0	1.00	1.00	0.23	0.57
伝染性紅斑	0	1.00	●3.50	●3.55	1.84
突発性発疹	1.00	1.00	0	0.39	0.35
ヘルパンギーナ	0	0.50	0	0.26	1.05
流行性耳下腺炎	0	0	0	0	0.04
急性出血性結膜炎				0.13	0.01
流行性角結膜炎				2.25	1.09
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.02
無菌性髄膜炎	0	0	0	0.17	0.06
マイコプラズマ肺炎	0	1.00	1.00	0.42	0.97
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0

急性呼吸器感染症 (ARI)	58.67	67.33	65.00	70.43	53.92
----------------	-------	-------	-------	-------	-------

●:警報レベル ▲:注意報レベル

【トピックス】 新型コロナウイルス感染症に注意しましょう。

長崎県の第36週の報告数は709人で、定点当たり報告数は13.90でした。地区別にみると、県北地区(27.33)、対馬地区(25.67)は他の地区より多くなっています。多くの地区で前週より減少しましたが、今後も動向に注意しましょう。
本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【トピックス】 伝染性紅斑が流行しています。

長崎県の第36週の報告数は110人で定点当たり報告数は3.55となり、5週続けて警報レベルの報告数となりました。地区別では、10保健所中7保健所で警報レベルの報告数となっています。
本疾患は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん(紅斑)、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児の異常や流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。感染経路は、飛沫感染や接触感染ですので、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

【トピックス】 RSウイルス感染症に注意しましょう。

長崎県における第36週の定点当たりの報告数は2.84で、3週続けて増加しました。地区別では、県北地区(12.00)が他の地区より多くなっています。

RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。ワクチンはなく、接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

特に県北地区では、保育施設より集団発生の報告があつています。保育所における感染対策ガイドライン(こども家庭庁)の登園のめやす(呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと)をふまえ、感染拡大防止に努めましょう。